

いしかわ歴史遺産認定

平安の世の歴史物語が息づく

歌舞伎のまち小松

KOMATSU JAPAN Komatsu the City of KABUKI



いしかわ歴史遺産とは

石川県内の各地に点在する文化財や歴史、伝承、風習等をわかりやすいストーリーとしてまとめ、全国にその魅力を発信し、観光誘客や地域活性化を図ることを目的に創設されました。

平成28年1月、「平安の世の歴史物語が息づく歌舞伎のまち・小松」が認定を受けました。

「平安の世の歴史物語が息づく歌舞伎のまち・小松」



子供歌舞伎「勸進帳」

小松には、安宅の関跡をはじめ、伝説の白拍子「仏御前」にまつわる史跡や木曾義仲との悲劇を生んだ斎藤別当実盛の兜など、源平物語にまつわる歴史遺産が多く残されています。

室町時代に、この源平の物語から謡曲「安宅」「仏原」「実盛」が誕生し、地域の人々が芸能に親しむ土壌を創出します。江戸時代には、加賀前田家三代利常公の小松入城に始まるまちづくりが、小松の経済を興し、のちの曳山子供歌舞伎に代表される町人文化を華咲かせ、人々の心に豊かさと潤いをもたらしました。

平安の世の歴史物語がつむぎ出した伝統芸能を受け継ぐDNAは、小松の人々に脈々と受け継がれ、歴史と伝統が息づく「歌舞伎のまち」をつくり出しています。

Komatsu, the City of KABUKI

Komatsu City, located in the southern part of Ishikawa Prefecture, is known as the "City of Kabuki" due to its deep cultural and historical ties with the theatrical tradition of kabuki. There are many ways to feel the spirit of kabuki when visiting Komatsu. Komatsu is home to the Ataka-no-Seki Barrier Ruins, said to be the historical setting of "Kanjincho", a famous kabuki play. The dazzling centuries-old Otabi Festival, held annually in May, showcases Edo culture with children performing kabuki on hikiyama floats elaborately decorated with engravings, pictures, and gold & lacquer works. The Japan Children's Kabuki Festival is held at Komatsu Urara Theater in early May, where the children of Komatsu and other cities perform some kabuki plays such as "Kanjincho". At Komatsu Hikiyama Gallery "MIYOSSA", two gorgeous hikiyama floats are displayed, and you can play traditional instruments used in kabuki plays. Komatsu offers a range of opportunities for visitors and locals alike to see, experience, and enjoy the world of kabuki.

「いしかわ歴史遺産ストーリー」

加賀国府と白山信仰

平安時代、律令制最後の国として加賀国が誕生すると、政治・経済・信仰の中心をなす国府が小松に置かれました。平安時代末頃には、白山信仰が力を伸ばし、国府周辺にも白山中宮八院が成立します。その一つ涌泉寺での事件をきっかけに白山勢力が国府と武力衝突を起こしました。この出来事は武家台頭の誘因となり、時代は武家の世へと移り変わっていきます。

美しき白拍子「仏御前」の伝説

小松には、平安末期に台頭した平家につつまれる物語が残っています。その一つとして、平清盛の寵愛を受けた加賀の白拍子「仏御前」の物語が、『平家物語』祇王の巻に登場します。

小松市原町には、仏御前が生まれ故郷の「原」に帰り、亡くなったという伝説と、関連した史跡が残されています。

実盛の兜と源平の悲劇の物語

平安末期、京に進む木曾義仲軍は篠原で平家軍と合戦に至ります。大将に扮する老兵を討ち取ると、それは命の恩人として慕った斎藤別当実盛でした。多太神社には、義仲が実盛を供養するために奉納したと伝わる兜が安置されています。

この悲劇の物語は、室町時代に謡曲「実盛」となり、能の演目として広まりました。



実盛の兜

『義経記』をもとに、室町時代に謡曲「安宅」が書かれ、江戸後期には歌舞伎「勸進帳」が完成します。物語は、平家打倒後、兄頼朝と対立し追われる身となった源義経が、奥州平泉に落ち延びる場面から始まります。山伏に扮した義経一行が安宅の関を通ろうとしたところ、関守の富樫左衛門が疑います。この危機を乗り越えるため、武蔵坊弁慶が東大寺復興勸進のための役僧と称し、即興で「勸進帳」を読み上げます。さらに、剛力姿の義経が咎められると、疑念を晴らすため金剛杖をもって主君義経を打ち据えます。富樫は、弁慶の主君を守ろうとする忠義心に心をうたれ、一行の通行を許可するのでした。

安宅の関を舞台に織りなす「智・仁・勇」の物語



仏御前 白拍子の舞

「曳山子供歌舞伎」250年の歴史を今につなぐ

江戸時代中期、春の例大祭「お旅まつり」に、曳山舞台で演じる子供歌舞伎が始まります。小松市に曳山が誕生して250年以上、絢爛豪華な曳山と艶やかな子供歌舞伎は今も受け継がれ、小松の歌舞伎文化を支えています。

義経主従が安宅の関を通過したという1187年から800年後、歌舞伎界の大名跡十二代目市川團十郎丈を迎えての「勸進帳小松八百年祭」が小松で開催されました。これを契機に、成田屋と小松の子供たちとの交流、そして、勸進帳のふる里の魅力を発信する子供歌舞伎「勸進帳」の公演が始まりました。平安の世の歴史絵巻と、伝統芸能の華「歌舞伎」を今に伝え、人々を魅了し続けています。



曳山子供歌舞伎

歌舞伎のまち「小松」を代表する三大行事

日本こども



歌舞伎まつりin小松

「歌舞伎のまち小松」の魅力を全国に発信しようと、平成11年より「全国子供歌舞伎フェスティバルin小松」が始まりました。石川県小松市團十郎芸術劇場うららを舞台に、全国各地の子供歌舞伎と、地元小松の子供たちの競演が繰り広げられます。小松市は毎年、市内の小学4～6年生から公募した子供役者が「勧進帳」を上演しています。令和元年より「日本こども歌舞伎まつりin小松」に名称を変更し、新たにスタートを切りました。



小松市中学校



文化連盟古典教室

義経主従の陸奥下向の年から800年を迎えたことを記念する「勧進帳小松八百年祭」の開催と時を同じくして、昭和61年、小松市内中学校による「勧進帳」公演が始まりました。毎年11月に小松市内の中学校10校の内の1校が持ち回りで歌舞伎「勧進帳」の上演に挑戦しています。役者や長唄・囃子方、メイクや着付け等の裏方も全て中学生が行っています。



曳山 (市指定文化財)

曳山は、明和3年(1766)に、龍助町・西町より始まり、最盛期には17・18基もの曳山があったと伝えられます。文化10年(1813)には10基となり、昭和初期の大火によって、松任町と東町の曳山が焼失して、現存の8基となりました。毎年2町が当番町となり、それぞれの曳山の上で子供歌舞伎を上演しています。

The Otabi Festival has been held yearly in Komatsu for over 250 years, and features as its unique characteristic the beautifully decorated hikiyama floats. Each of the 8 existing floats belongs to a different neighborhood in Komatsu, and every year two of them are chosen as the stage for children's kabuki plays, typically performed by children living in that neighborhood.

お旅まつりの曳山行事

(県指定文化財)

毎年、5月中旬に行われる「菟橋神社」と「本折日吉神社」の春季例大祭のお旅まつりは江戸時代初期より始まりました。「お旅」という名は、神様に乗せた神輿が氏子町内や小松城の御門などを巡行(お旅)することが由来と言われています。1766年、町人たちがまつりを盛り上げるため曳山行事を取り入れ、曳山の上で芝居が演じられるようになりました。絢爛豪華な曳山と、その上で上演される子供歌舞伎がまつりの見どころです。近年は、お旅まつりのクライマックスとして、八基の曳山が曳き揃い、まつりを盛り上げています。



材木町曳山

板絵の裏の墨書きから、文化10年(1813)かそれ以前に建造されたと推測されています。天井の絵は九谷焼の名工、粟生屋源右衛門のもので15枚の花鳥図が格天井に組み込まれています。



西町曳山

曳山の棟札から、寛政2年(1790)の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。



中町曳山

屋根を支える組み物は極彩色で彩られ、柱は螺鈿細工が施されています。天井の絵は九谷焼の絵師、鍋谷丈助によるものでしたが、明治42年(1909)の大火により焼失しました。



龍助町曳山

屋根は二重構造で、上の屋根には極彩色の雲形が描かれています。天井の龍の墨絵は九谷焼の名工、二代松本佐吉によります。軒先四隅の龍の彫刻など、装飾が多く、華麗な姿をしています。



八日市町曳山

二重屋根で高さが6.57mと八基の中で最も高く、二重屋根の上層は那谷寺の鐘楼をかたどっています。天井には金箔が施された板に四神(青龍・白虎・朱雀・玄武)が描かれています。



寺町曳山

江戸時代の末期に大聖寺藩より唐銅宝鐸を賜り、屋根の四隅に飾られるようになりました。天井には九谷・若杉窯の名工、北市屋平吉による「雲形鳳凰図」が描かれています。



大文字町曳山

那谷寺造営に携わった名工、山上善右衛門の流れをくむ大工たちが建造したものといわれています。後方の開き扉に施された彫刻は那谷寺の三重塔を模しています。



京町曳山

伝承では寛政4年(1792)の建造。側面の「むしこ」に付く彫刻は京町の彫刻師・村上九郎右衛門による文政12年(1829)の作。九郎右衛門は明治期の彫刻家・村上鉄堂の祖父にあたります。



歴史物語ゆかりの地を訪ねて



安宅の関跡

石川県指定史跡
MAP 1

古代北陸道の駅のあった地であり、加賀国の水陸交通の要衝地です。謡曲「安宅」、歌舞伎「勸進帳」の舞台として知られています。「安宅の関跡」は海を見渡す松林の中にあり、すぐそばには、弁慶・富樫・義経の銅像が立っています。



安宅住吉神社

MAP 2

安宅の関跡を境内に持つ神社です。安宅湊に占地する古社であり、船舶安全祈願、「難関突破」の霊神としての信仰を集めています。



加賀国府跡（推定地）

MAP 3

能美平野を望む台地上に立地し、この地に国分寺・国庁・総社などの施設が存在していたと推察されます。眼下の平野には、古代集落遺跡が濃密に分布し、背後の里山には、国分寺の僧たちの修業場として山寺が複数分布しています。



陶製水煙

小松市指定文化財

MAP 4

加賀国分寺の塔の頂部を飾る相輪として制作されたと推定される全国でも稀な須恵器製品です。9世紀に位置づけられる戸津窯跡から出土しました。（小松市立博物館収蔵）



那谷寺本堂

国指定重要文化財

MAP 5

那谷寺は、『源平盛衰記』にも登場する白山三カ寺の一つです。戦国時代の一向一揆で荒廃しましたが、近世に本堂などが再建され復興されました。芭蕉が奥の細道紀行の途中で立ち寄り、「石山の石より白し秋の風」の句を残した名刹でもあります（国の名勝指定地）。



松谷寺跡（伝承地）

MAP 6

松谷寺は、『源平盛衰記』に登場する白山信仰の末寺、白山中宮八院の一つです。泰澄が開いた古刹との伝承があり、般座信仰の対象となる巨石の露頭があります。奈良時代の仏堂跡が発見されています。



前田利常公像



仏御前の里 原町

MAP 7

原町には、『平家物語』に登場する平清盛の寵愛を受けた加賀の白拍子「仏御前」にちなんだ史跡が多く存在します。「仏御前屋敷跡・仏御前墓」（市指定文化財）は、故郷の原に帰り庵を構えた場所とされており、現在には供養塔が建てられています。「奈毘の地」は、火葬した地と伝わる場所で、五輪塔が祀られ、町内の民家では、現在も仏御前の仏像が安置されています。（仏御前が祇王寺を発つときに、身代わりとして預けたと伝わるもので、650回忌に故郷の原町に贈られました。）

毎年、9月中旬に御前様祭が開催され、仏御前の像の前で、地元女子中学生による「白拍子の舞」が奉納されています。



多太神社所蔵の兜、袖、臍当

国指定重要文化財

MAP 8

源平の戦「篠原の戦い」にて木曾義仲軍に敗れ非業の最期をとげた武将齋藤別当実盛の兜一式と伝えられています。芭蕉も奥の細道紀行の途中立ち寄り、兜を拝謁し、「むざんやな甲の下のきりぎりす」の句を詠みました。

毎年、7月下旬にかぶと祭りが開催され、拜殿では能「実盛」が奉納されます。



前田利常公が育んだ小松の伝統文化

加賀百万石の基礎を築き上げた、加賀前田家三代利常公は寛永17年（1640）に小松城に隠居しました。利常公は、以降亡くなるまでのおよそ18年の間に、小松の産業を振興し、寺や神社を町なかに集めるなど町割りを行いました。また、芸術や文化の振興にも力を注ぎました。

小松城の整備とまちづくり

利常公は、加賀一向一揆の拠点であった小松城を本丸と定め、二の丸、三の丸の増築など大規模な改修を行いました。石垣で区画された城内には、多くの水堀と島を配置し、「小松の浮城」とも呼ばれる、類まれな景観を持つ名城として生まれ変わりました。



利常公の殖産興業と文化政策

利常公は、中世から定着していた絹織物産業に、京などから先進的な技術を取り入れ「加賀絹」ブランドを確立させます。また、経済を活性化させると同時に、加賀大工の祖・山上善右衛門、連歌の第一人者・北畠能順、裏千家の創始者・千宗室など、多くの名工・文化人を小松に招聘し、小松のみならず加賀藩に高い文化の創出をもたらしました。



茶道



能楽



仙叟屋敷ならびに玄庵



こまつ町家



「安宅の関」こまつ勸進帳の里 勸進帳ものがたり館

勸進帳にまつわる資料や遊んで学ぶ体験展示、大画面シアターで歌舞伎「勸進帳」のダイジェスト映像をご覧いただけます。

小松市安宅町タ140-4 ☎ 0761-21-6734
開館時間／9時～17時(入館は16時半まで)
入館料／大人300円、高校生以下150円
休館日／水曜(祝日の場合は翌日)、年末年始



こまつ曳山交流館 みよっさ

平成25年春に開館した、絢爛豪華な曳山2基を常設展示する施設。曳山の迫力ある姿を間近で見ることができます。

小松市八日市町72-3 ☎ 0761-23-3413
開館時間／10時～17時 入館料／無料
休館日／4月～11月は無休、
12月～3月は水曜(祝日の場合は翌日)、
年末年始



石川県小松市 團十郎芸術劇場うらら

平成16年に開館した本花道やセリを持つ本格的な歌舞伎公演のできる劇場です。

小松市土居原町710 ☎ 0761-20-5500
開館時間／9時～22時(催事の場合は18時)
休館日／水曜(祝日の場合は翌日)、年末年始



歌舞伎のまちギャラリー 成田屋と小松の絆

「勸進帳 小松八百年祭」を機にはじまった成田屋と小松の絆。十二代目市川團十郎翁から続く小松との交流を展示しています。

小松市土居原町710
☎ 0761-20-5500(團十郎芸術劇場うらら)
開館時間／9時～22時(催物がない場合は18時に閉館)
入館料／無料
休館日／水曜(祝日の場合は翌日)、年末年始



粟津演舞場

加賀に残された唯一の芝居小屋として注目され、平成26年にリニューアル開館しました。

小松市井口町へ1 ☎ 090-3296-3417
開館時間／9時～18時
施設見学科／200円
休館日／予約時のみ閉館

お問い合わせ先

(一社) こまつ観光物産ネットワーク

〒923-8650 石川県小松市小馬出町 91 TEL / 0761-24-8394 FAX / 0761-23-6404
「こまつ観光ナビ」www.komatsuguide.jp

